

第4回ユネスコスクール全国大会が奈良市で開催

1月26日(土)奈良教育大学を会場に第4回ユネスコスクール全国大会が開催されました。

テーマは「ESDの実践上の課題解決に向けて」。午前中は奈良教育大学附属中学校1年生の特別授業、午後からは、テーマ別交流研修会や「グローバル社会に通用する人材をESDでどのように育てるか」のシンポジウムなど、充実した内容でした。

第3回世界遺産学習全国サミットinならで実践発表

ユネスコスクール全国大会の翌日1月27日(日)、「世界遺産学習全国サミットinなら」が奈良市で開催され、午前中の分科会において、駿馬北小学校の武田貞弘教頭先生が「大牟田大好き!~子どもが進んで取り組む世界遺産学習~」というテーマで実践発表を行いました。

発表の要旨

地域に残る近代化遺産(世界遺産候補)について学習することで、体験的に理解を深めながら、地域で学んだことを誇りを持って語る子どもを育てることをねらいとして、以下の実践を行った。

(1) 近代化遺産の活用を図った社会科学習


各学年の社会科学習で、石炭産業に関わる大牟田市の近代化遺産を教材として取り入れ、児童が主体的に調べる学習を展開する。

(2) 各教科等の関連的指導

各教科、道徳、総合的な学習の時間など横断的な学習を通して、

①多面的、構造的な見方・考え方の育成、②学ぶ意欲や問題意識の持続、③子どもの思考の流れにそった学習活動の実現を図る。

(3) 市や地域との連携



「子ども大牟田検定」、「鉄道敷クリーンアップ」や「世界遺産候補めぐり」などの市や地域の行事を通して、大牟田市の「ひと・もの・こと」に興味を持たせる。これらを通して、近代化遺産の価値にふれるだけでなく、知識や理解が深まったことにより、それらを大切にしていこうという意識が高まった。また、地域の方々とふれあう中で、校区や大牟田市への関心が高まり、地域行事への参加が増えた。

「ユネスコスクール子どもサミット」報告①

本号より「ユネスコスクール子どもサミット」の内容を、発表順に紹介していきます。

① 明治小学校【世界とつなぐ環境探検隊】

明治小の5年生は、堂面川の上・中・下流域の環境について、実際に自分たちが現地に行って生き物や水質を調べ、川の水が生活排水で汚れていることに気づきました。そして、自分たちが調べたことを、大牟田市の



友好都市である中国大同市の第十八小学校の子どもたちにビデオのメッセージとして送りました。さらに、2校でいっしょに考えた「水の環境を守る8つのアクションプラン」を、中国語を交えながら発表をしました。

② 上官小学校【大牟田川にホタルがいたよ】

きれいな川にだけ住むゲンジボタルが、「七色川」と呼ばれる程ひどく汚れていた大牟田川で、6・7年前から見られるようになった秘密。それは、「大牟田川を守る会」のメンバーが20年以上にわたって大牟田川の清掃活動に取り組んできたこと、そして、川にゴミを捨てる人が減ってきたことでした。

上官小の子どもたちも、きれいになった大牟田川を守るため、自分たちにできることを発表しました。

